



2018 中国国際友好都市大会 in 武漢 ～中国発の都市交流の祭典～

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 山本 大輔 (鳥取県派遣)

中国国際友好都市大会とは

中国国際友好都市大会は、中国の国際友好都市間の交流を促進することを目的として、第1回大会は2008年に北京市で開催されました。6回目となる今回は「発展機会の共有と互惠協力の深化」をテーマに、2018年11月15日から16日にかけて湖北省武漢市で開催されました。

本大会は隔年での開催ということもあり、日本の地方自治体関係者には馴染みが薄いかも知れませんが、世界57か国からの海外招待者330人余りも含め、700人以上の参加者が集う中国の国家的イベントです。

大会の様様について本誌で紹介します。



武漢の地元新聞は大会の様様を連日1面で詳細に報道した

友好都市大国・中国

日本の鳩山由紀夫元首相やウガンダのセカンディ副大統領らがゲストに名を連ねた本大会。開会の挨拶には王岐山国家副主席が登場し、「政府は国内外の民間友好交流を多元的に支援する。中国の国際友好都市活動はすでに45年が経過し、今後も国内外の経済社会の発展を促進し、自国民と世界との相互理解と友情をさらに深めて

いきたい。各都市にはそれぞれの特色や優位性があり、異なる問題に対しても、共に挑み、協力基盤を厚くすることによって明るい見通しが開けるだろう。『発展機会の共有と、互惠協力の深化』という大会のテーマのとおり、新時代に向けて都市間の交流を展開し、新たな活力を注ぐことを期待している」と述べました。



王岐山国家副主席の登壇に沸き立つ会場

国のトップクラスの要人が出席し、これまでの国際友好都市活動の成果を評価したうえで、これからの都市交流の全面的な支援を宣言するということは、中国が都市交流をいかに重視しているかを物語っています。

また、主催者の李小林中国人民対外友好協会長は、基調講演の中で「1973年の天津市と神戸市との友好都市協定締結を皮切りに、現在では136の国との間で2,566もの友好都市協定を結んでいる。国の発展に伴い、地方都市では交流協力を強化する意欲が高まっている」と指摘し、国内外の友好都市の更なる交流を積極的に支援すると発言しました。

中国の地方政府の友好都市協定締結数を見ると、中国がいかに多くの世界の都市と交流しているか、お分かりいただけるかと思えます。

・中国主要省市の国外の友好都市協定締結数

都市名	締結数	相手先の日本の都市（締結順）
上海市	65	横浜市、大阪市、大阪府
北京市	56	東京都
広東省	47	兵庫県
江蘇省	37	愛知県、福岡県
河南省	37	三重県
寧夏回族自治区	35	島根県
広州市	35	福岡市、登別市
山東省	33	山口県、和歌山県
海南省	33	兵庫県
成都市	33	甲府市
四川省	28	広島県、山梨県
重慶市	28	広島市
武漢市	28	大分市
天津市	27	神戸市、四日市市、千葉市
黒竜江省	25	新潟県、北海道、山形県
陝西省	25	京都府、香川県、奈良県、愛媛県
甘肅省	25	秋田県
福建省	24	長崎県、沖縄県
広西壮族自治区	24	熊本県
昆明市	22	藤沢市
湖南省	21	滋賀県、徳島県
河北省	21	長野県、鳥取県
安徽省	20	高知県
江西省	19	岐阜県、岡山県
遼寧省	18	神奈川県、富山県
浙江省	15	静岡県、福井県、栃木県
山西省	15	埼玉県
吉林省	14	宮城県、鳥取県、島根県

(注) 日本と中国では友好都市の定義が異なる。本表は中国人民対外友好協会統計（2018年11月）を基に作成。

大分市と武漢市の結びつき

午後のハイレベル対話には、日本からは大分県大分市の佐藤樹一郎市長がパネリストとして参加しました。武漢市が友好都市協定を結んだ最初の都市が大分市であり、1979年の協定締結から40周年にあたる2019年には、さまざまな記念事業が予定されています。

佐藤市長はまず、大分市と武漢市との関係について、大分市内の大手製鉄会社の工場技術者が武漢市内の製鉄所へ技術協力のため派遣されていたことなどから交流が

盛んになり、友好都市協定締結のきっかけとなったことを紹介しました。大分市と武漢市は経済分野のほかにも、学生の交換留学などの教育分野や、文化芸術・スポーツ・農業・医療など、多くの分野で交流を深めています。



武漢市との友好都市関係について語る大分市・佐藤市長

講演の最後には、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップの会場として大分市でも5試合が予定されていることをPRし、大分市への来訪および試合の観戦を呼びかけました。

経済協力の側面

友好都市協定の内容として欠かせないものが、経済面での協力関係の構築です。最近「一帯一路（The Belt and Road Initiative）」という言葉に耳にした方も多いと思います。これは中国が提唱する陸路と海路で世界を結ぶ巨大経済圏構想を指しますが、本大会では、ウガンダやウズベキスタン、セネガル、モンテネグロの政府代表者らが、一帯一路の趣旨に賛同する意を表明し、中国と諸外国間で自動車部品やバイオ医療、環境エネルギーなど貿易プロジェクトに関する21の項目について、計1,398.9億元（約2兆3,000億円）にのぼる契約が締結されました。この数字からも、一帯一路がもたらす経済的な波及効果の大きさがうかがえるかと思えます。

本大会には一帯一路からは遠く離れた中南米からも代表団が訪れ、中国からの経済投資および多分野での協力を期待するコメントが多く寄せられていたことが印象的でした。また、中国国内都市の代表者からも、投資を呼びかけるプロモーションが多数展開され、地域内の産業政策に対する日本と中国の地方政府の果たす役割の大きな違いが垣間見えました。

中国国際友好都市大会に出席した国別の一覧
(全 57 か国)

- ・アジア (11 か国)
日本、韓国、モンゴル、ネパール、カンボジア、ミャンマー、タイ、スリランカ、ウズベキスタン、キルギスタン、トルコ
- ・アフリカ (5 か国)
ウガンダ、ケニア、セネガル、カメルーン、南アフリカ
- ・欧州 (22 か国)
イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、ベルギー、デンマーク、ポーランド、ハンガリー、チェコ、モンテネグロ、ルーマニア、ギリシャ、キプロス、イスラエル、エストニア、ラトビア、リトアニア、ウクライナ、ノルウェー、フィンランド、ロシア
- ・北中米 (8 か国)
アメリカ、カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、ハイチ、パナマ、コスタリカ、エルサルバドル
- ・南米 (9 か国)
ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、ペルー、ボリビア、ベネズエラ、スリナム、ガイアナ
- ・オセアニア (2 か国)
オーストラリア、ニュージーランド

友好都市表彰式

大会の終盤には、良好な友好都市関係のモデルとなった団体に対する表彰式が行われ、世界 78 団体、日本からは北海道、長野県、広島県、横浜市、福岡市、石川県金沢市、三重県津市、島根県松江市、沖縄県浦添市の計 9 団体が受賞しました。

受賞団体を代表してスピーチを行った浦添市の松本哲治市長は、2018 年に福建省泉州市との友好都市締結 30 周年を迎えたことを紹介し、感謝の意と祝辞を述べました。浦添市と泉州市は、双方が初めて友好都市協定を結んだ都市でもあり、琉球王朝の時代から交流のあった両市の友好関係は、これからも末永く続いていくことでしょう。

本大会における講演は中国国内のみならず世界各国の友好都市関係者に対して地域の魅力を PR する絶好の機会です。

今回の国際友好都市大会は来年の 2020 年に、雲南省昆明市で開催される予定です。日本から多くの知事、市町村長が参加されることを期待します。



友好都市表彰式の模様